



▲子ども食堂への代理寄付

教育財団の理事長より、「地域の子どものために少しでも寄付をしたい」とご相談があり、若林区内の子ども食堂への橋渡しを行いました。笑顔あふれる子ども食堂も地域の協力があってこそです。子ども食堂は社会的意義のある大切な取り組みです。今後とも子ども食堂の取り組みを応援してまいります。



▲東日本大震災から12年

東日本大震災から12年。今年は若林区井土地区で3.11を迎え、犠牲になられた36名の御霊へ合掌しました。「12年前も午前中はこんなふうにあったかかったなあ。」「今はこんなふうで笑ってられっけど大変だったなあ。」集まる、話す、伝える、残す過去、現在、未来。言葉以上の想いが被災地にはあります。これから足運びを続けます。



▲歳を活かしたひなまつり

若林区南材木町にある、旧丸木商店で「歳 de ひなまつり」、旧針惣旅館では「洋館 de ひなまつり」が徐々に開催されました。旧針惣旅館は、土井晩翠氏や市川房枝氏など多くの文人・墨客が愛し、明治期の店蔵と昭和初期の洋風建築が見事な建築物です。



▲入学式への参加

4年ぶりに各所で来賓や地域の方を招いての入学式が開催され、各所でご挨拶の機会をいただきました。緊張の面持ちで参加する子どもたちが、数年後卒業するころには立派に成長する姿は感慨深いものがあります。自らの夢や希望を持ち、若い感性でイノベーションを仙台の地から巻き起こしてくれることに期待しています。

猪又 隆広 Start 仙台市政報告書 vol.013 仙台市議会議員

現地現場主義！若林区の皆様からの声を力に、新年度の市政を大きく前進！



仙台市議会議員 猪又 隆広

御挨拶 初夏の訪れを感じる心地よい季節となりました。新年度は一般会計 6,147 億円と仙台市政として過去最大規模の予算編成となりました。新年度、これまでの施策を軸に、デジタルの力を活かした「区役所窓口のDX推進（書かない窓口）」、「高齢者のeスポーツを活用した健康づくり」等、子育て世帯に向けては、「子ども医療費助成所得制限撤廃」「子どもの遊びの環境の充実」等、若者にはまちづくりに積極的に参加してもらうためのワークショップ開催、安心した環境整備のために、「休日夜間救急オンライン診療」「民生委員活動支援」等、まちの魅力の創造発信として、「スタートアップ企業支援」「インバウンド推進」「海浜エリア活性化」「米と米粉・農作物の活用促進」等、暮らしに直結する予算が充たされています。その一つ一つが、本当に市民の皆様にとって使い勝手の良いものになっているか、暮らしやお仕事に届いているかしっかりと注視し、提言をする中で、議員としての職責を果たしてまいりたいと思います。昨年の12月より本格的に再開した街頭活動では、連日多くの皆様から車中からのお手振りや会釈、直接励ましのお声をいただいております。また最近では積極的に地域を歩く中で、本当に多くの方々から身の回りのちょっとした大変なこと、理不尽なこと、改善してほしいことのお声を頂く機会が増えています。こういった声は現場を歩かなくては出てこない課題も多くあります。現地現場主義。一つ一つの声を大切に若林区から仙台市政を進めるべく、仙台市議会議員として取り組んでまいります。

現地現場主義！地域の諸課題に全力投球！

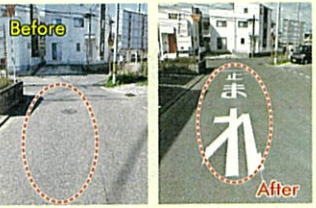
宮城野萩大通り イエローハットさん前歩道

進行中



沖野3丁目変則5差路

完了



若林6丁目側溝汚泥清掃

完了



宮沢根白石線が開通しました！

令和5年3月23日、昭和市電通りと連坊小路交差点を結ぶ新たな都市計画道路、宮沢根白石線（舟丁・南鍛冶町区）が開通しました。平成8年度から始まった本事業は、27年の時間の中で地元の皆様のご協力によって開通しました。今後は新宮沢橋の架け替えが3年後の令和8年3月末までに完了見込みです。

仙台市議選の日程が決まりました！

告示日7/21(金) 投開票7/30(日) 朝の街頭活動を昨年の12月より再開しています。多くの方から手を振り返していただき、ご通行中の方からも直接励ましや市政の諸課題をいただいております。皆さんからいただく声をエネルギーに、しっかりと走りぬいでまいります！

他にも地域の声をカタチにするため、順次取り組み中です！

猪又 たかひろ プロフィール 宮城県栗原市生まれ、仙台市若林区出身。若林小、八軒中、仙台高校（部活は吹奏楽部、部長、楽器はコントラバス）、東北学院大卒（日本史専攻、教員免許取得）、衆議院議員秘書を12年、2019年8月の仙台市議選に若林選挙区から挑戦し初当選。仙台市議会議員（1期）。8歳の息子と4歳の娘の父です。

SNSでも情報発信中です！ inotaka35office/ @inotaka0924 1983takahiroinotama

市政あれこれ：仙台市からのご案内（5月2日現在）

仙台市中小企業チャレンジ補助金 新年度予算の取り組み「書かない窓口」 行政手続きにおいて住民・職員の負担軽減を図るため、住民票などの証明書の申請や、転入、転出といった住民異動の手続きの際に、従来記入をしている申請書などを「書かない」ようにすることで、手続きが簡単になる行政サービスです。【できること】 ●住民票の写し等の証明書交付 ●申請書や電子証明書の更新申請 ※ただしマイナンバーカードが必要になります。【設置場所】 ●5区役所、2総合支所に1台ずつ設置想定 申請書作成（自動化）の仕組み 1 住民がマイナンバーカードをかざし、申請項目などをパネルで入力 2 申請書が出力される 【基本4情報】などを自動印刷 得られる成果 手書きの手間なく迅速に手続きを済ませられる 住民 正確な読み取りにより記入ミスを防ぎ、窓口業務を効率化 職員 第40回全国都市緑化仙台フェア開催中 仙台市では平成元年度以来、34年ぶりの開催となります。【開催日時】～6月18日(日)まで



①[河原町、南材エリアの今後のまちづくり]

▶社の都景観重要建造物等の今後の保全と更なる指定

Q: 河原町には令和の時代の現在でも江戸、明治、大正、昭和を感じるられる歴史的建造物や地名が多く残っています。本市が指定している「社の都景観重要建造物等」8件の内5件は河原町・南材エリアにあり、仙台菓菓子の老舗「石橋屋」、明治期には味噌醤油の製造業を営んでいた「小林薬品」、天明元年から続いた薬問屋「丸木商店」、土井晩翠や市川房枝氏など多くの文人・墨客が滞在した「旧針旅旅館」、河原町の歴史を見つめてきた看板が印象的な「旧仙南堂薬店」等が指定されています。景観資源の保全の観点から、地域の景観としての価値の高い建造物を守っていくための支援が必要です。これまでの取り組みと今後の保全の在り方について伺います。併せて、「社の都景観重要建造物等」の更なる指定について議論すべきと考えますが、ご所見を伺います。



A: 景観条例に基づき、城下町の面影を残す町家等8件について、専門家の派遣や外壁修繕工事費用の助成などの支援をしてまいりました。昨年9月に、近年頻発する災害に対応するため助成制度を拡充したところであり、これらの支援制度により歴史的建造物の保全を図ってまいりたいと考えております。今後の社の都景観重要建造物等の更なる指定に関しては、地域の景観のシンボルとしてふさわしいものを改めて整理した上で、新たな指定方針を検討することにしており、今後、歴史的価値にとどまらず、景観資源として地域で重要な役割を果たしているものも対象とするなど、幅広い視点を持って方針を検討してまいります (都市整備局長)

▶南材・河原町エリアの商店街・地域の活性化

Q: 現在、昭和市電通りから連坊小路までの区間において、宮沢根白石線南鍛冶町、舟丁工区の都市計画道路が3月23日より供用開始となり、駅東以北からのアクセスが各段にあがることとなります。また、令和8年度中の新宮沢橋の完成や河原町商店街での再開発事業とまちのアップデートが進んでいきます。この機会を活かし、河原町商店街をはじめとする地域の賑わいや商店街での交流人口の拡大の流れを作っていく必要はないでしょうか。現在、河原町商店街では毎月第二日曜日に河原町マルシェを開催し、毎月テーマを変え、地域の賑わいづくりに商店街や地域が一丸となって取り組んでいます。南北線沿線まちづくりプランの位置づけのもと、商店街や地域の活性化に今後どのように取り組んでいくのかをお考えを伺います。



A: 南北線沿線まちづくりプランの策定に当たりましては、商店街をはじめとする地域の皆様と御意見をいただきながら、このエリアの活性化に向けた取組などについて取りまとめているところでございます。今後におきましては、歴史的、文化的資源が多く残るこのエリアの魅力を生かした将来のまちの姿等を地域の皆様と共有するとともに、様々な機会を捉え、地域の取組への参加や意見交換を重ね、商店街によるイベントや歴史的建造物の保全への支援を行うなど、これまで以上に地域の皆様との連携を強め、地域の活性化に取り組んでまいります (都市整備局長)

猪又たかひろの議会での質問の様子をいつでも確認できます。詳細は「仙台市議会インターネット中継」で検索ください。

■子どもの遊び場環境の充実

Q: これまで本市では、子育てしやすいまちづくりを進める中で、「すこやか子育てプラン2020」に沿った遊びの環境充実の取り組みを進めてきました。令和5年度はプレーリーダー活動を行う団体等に活動助成を行うということであり、よく子どもたちは「時間」「仲間」「空間」の3つの間(サンマ)が足りないと伺われています。現代の子どもの遊びの環境を本市ではどのように考えているのかお伺いします。

A: 社会状況や生活スタイルの変化などを背景に、自然の中で、また子ども同士で主体的に工夫をしながら遊ぶという機会は減少しているものと認識している。(子供未来局)

Q: 雨天時の遊び場整備として、過去のアンケート調査ではのびすく以外の屋内遊び場を望む声も多くあった。例えば、将来的な県民会館の跡地活用事業として、若い世代の創造の場の創出と併せて、子育て世代が気軽に遊べる複合的な屋内施設の設置なども検討すべきと考えますがいかがでしょうか。



A: 若い世代の創造の場づくりと併せて子どもの遊びの要素を取り入れる視点は、まちの魅力の向上に資するものでありますが、都心部に複合施設を設置することについては、総合的な観点からの判断を要するものと認識しています。民間の事業者の動向とも連動させながら、遊びの環境の充実に取り組んでまいります。(子供未来局)

■難聴児への支援

Q: 本市では難聴児のための「きこえの教室」を設置しています。通っている児童生徒の多くは、補聴器や人工内耳を装着しているが、教師や周囲の児童生徒の声を聞き取るために、直接音が届くワイヤレスマイクいわゆる送信機が必要です。このワイヤレスマイク、現状ご家庭持ちで機種にもよりますが、安いもので14万円ほどかかります。直接耳につける補聴器が個人持ちなのはわかりますが、障害者自立支援法にある合理的配慮に照らし合わせても、聴覚に課題を抱える子どもが情報を得る手段としてワイヤレスマイクの重要性は大変高いです。故障や破損のリスクを防ぐためにも、公費での支援が必要だと考えますが、ご所見をお伺いします。



A: 聴覚障害のある児童生徒は身の回りの音や話し言葉が聞こえにくいということから、適切な情報を得られるよう、様々な支援、合理的配慮の提供が必要であると認識しており、ワイヤレスマイクもその手段の一つと考えています。今後、学校で使うワイヤレスマイクについては、学校が用意するという検討の上、対象のお子さんが適切な配慮を受けられるようにしてまいりたいと思います。(教育長)

難聴児への支援が実現しました!

その必要性を理解してもらい、年度内に整備してもらうことになりました。子どもたちから嬉しいお手紙をいただきました。



②[市長の不登校特別校訪問]

▶不登校特別校訪問の所感

Q: 不登校特別校について伺います。不登校特別校に関しては、これまで既存の公立校との連携や通学・財政支援などを訴えてきましたが、この春、仙台市内初となる私立の不登校特別校、「ろりぼっふ小学校」が開校します。先日、郡市長に4月からの小学校の運営、これまでのフリースクールの様子、フリースクールを利用する保護者の声をお聞きいただきました。市長は今回現場を訪問され、その意義や必要性などにお感じになったのかお伺いいたします。

A: このたび、学校を創設される法人、また地域、保護者の方々と懇談をさせていただきまして、大変有意義な時間を過ごすことができました。特別校の設置は、様々な背景、要因などにより登校できない状況にあるお子さんたちの学びの選択肢を広げ、社会的な自立につながるものと期待を寄せております。自然豊かな坪沼の地で、地域の皆様の御理解の下、健やかに安心して学べる場となるよう願うとともに、本市の教育環境の充実に向けて思いを新たにしたいと考えています。(市長)



▶不登校特別校への財政支援

Q: 不登校特別校を利用する保護者への財政支援です。今回の市長訪問で、保護者からも仙台市の財政支援に期待をしているとの声をお聞きいただいたと思います。本ネットだからこそ、国に先駆けた財政支援を実施することで、たとえ不登校になっても仙台市が財政的に支えるよ、選択肢があるよというメッセージを強く発信すべきと考えますが、市長にお伺いいたします。



A: 不登校となっているお子さんの学びの場の確保のためには、ご家庭に一定の負担が生じることが想定されますことから、教育機会確保法の中でも、政府が支援について必要な措置を講じることとされており、これを受けて、本市でも国に対し、財政措置について繰り返し要望しているところでございます。学びを継続したいというお子さんたちや、ご家族のお気持ちに寄り添いながら、国への働きかけを行いますとともに、本市としても不登校支援の在り方について検討してまいりたいと存じます。(市長)

■若林区東部地区の今後の地域交通の見通し

Q: コンパクトシティを目指す本市にとって、既存の公共交通の在り方が難しくなっている中で、本市でも「のりあいつぼめ」や「つぼめまよう」等の地域交通の取り組みを進めてきました。若林区では六郷東部地区で地域交通の可能性を模索しているが地域の課題をどのようにとらえていらっしゃるか、お伺いいたします。

A: 六郷東部地区は地域によって路線バスの運行状況だけではなく、買い物や通院の目的地も違いがあります。エリアによる課題が違ってくるから、今後どのように地域交通を導入していくか地域の皆さんと考えていきたいと思います。(都市整備局)



Q: 海浜エリアの活性化という視点も重要。六郷東部地区は広範なエリアを東日本大震災の津波の被害を受けた。かさ上げ道路の東側だけではなく、広く六郷東部エリアと沿岸部を結ぶ周遊ルートを作り、六郷東部地区と荒井駅や磯原のアクアイグニスなどを結ぶ沿岸部の周遊ルートと連携した地域交通の在り方も必要と考えますが、いかがでしょうか。



A: 地域交通は地域の方々の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保を第一としながらも、地域の特性も考慮することが重要と認識しております。六郷東部地区の意見交換会では、荒井駅やアクアイグニスなどの施設も目的地にしたいというご意見もあったことから、東部沿岸地域における周遊ルート形成の取り組みに関する情報も共有しながら、地域の方々や検討を進めてまいりたいと思います。(都市整備局)

Q: 本市の公共交通については、路線バスの厳しい経営状況をはじめ、多くの課題があります。地域主体で移動手段を確保するという取り組みは、そうした課題の一端を地域が自ら解決しようというもので、とも捉えられます。地域としては大きな努力を払い、悩みながらも、前に進む決断をしています。今後も地域交通の導入に向けた力強い押しを仙台市に期待いたしますが、市長の考えを伺います。

A: 本市では路線バスが使いにくいという地域やあるいは高齢化が進む地域など、皆さんの日常の移動手段の確保に向けて地域交通のり事業を創設し、応援をしているところであります。引き続き地域の皆様がどのような形での交通をお望みなのか対話を丁寧に進めて、しっかりとお支えしながら市民協働で地域の実情にあった移動手段の確保に取り組んでまいります。(市長)

仙台市議会見学できます!

仙台市役所新庁舎建て替えにあたり、今年の6月で議会機能が移転をします。50年以上の歴史ある市議会棟や本会議場を見るチャンスは、あとわずかです。ご案内しますので、お気軽にご連絡ください!お待ちしております。



子どもたちの「命」を守るために

寺岡小でのいじめを苦に母子心中したとみられる事案で、子育て環境充実調査特別委員会内で質疑しました。私からは「遺族の思いに寄り添った形で、信頼関係を築きながら再調査を進めてほしい」と力強く訴えました。自死という形で子どもたちの命が失われないよう、引き続き求めてまいります。



【その他の質問項目等ははこちらから】

- Q. 子育て世代に選ばれるまち、仙台の実現
Q. いじめや不登校に取り組むための教育データの連携構築
Q. 仙台医療圏の病院再編問題

